

インタビュー

山田マシニング

エンジニアリング
スーパーバイザー 半田祐樹氏

生産性向上や時間短縮のため、現在多くのユーザーがロボットに
よる溶接自動化に取り組んでいる。そんな中、山田マシニングは、日本でも試行錯誤



現地工場の様子

イのチョンブリー県に
おいて、全長約100の
にわたる新たな自動
化ラインを構築し、ピ
ックアップトラック用
シャシーフレームを製
造している日系企業に
納入した。このライン
には炭酸ガス・マグ溶
接を担うロボットが42
基配置され、ハイテン
材の溶接を効率的に進
めている。クライアン
トの要望により、溶接
機とロボットにはタイ
ン製を採用した。ワタ
タツの投入など一部は
地タイ人経営の協業会
当社が選ばれた背景に

自動車溶接工程の自動化

海外の溶接ライン立ち上げ苦勞

上げた詳細についで、同社のエンジンパ
ーバイザーの半田祐樹氏に話を伺った。
◇ 当社は、タイの炭酸ガス・マグ溶接を担うロボットが42基配置され、ハイテン材の溶接を効率的に進めている。クライアン
トの要望により、溶接機とロボットにはタイン製を採用した。ワタタツの投入など一部は地タイ人経営の協業会
当社が選ばれた背景に